



被団協



● 発行所
 北海道被爆者協会
 札幌市白石区平和通
 17 丁目北 6-7
 北海道版 北海道ノーマア・ヒバクシャ会館内
 TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者協会 ホームページ <http://h-nomore-hibakusha.org/> メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

被爆 77 年 原爆死没者追悼会開かれる

参加人数を 70 名に制限して行われた被爆 77 年の原爆死没者追悼会が、8 月 6 日札幌市内のホテルで開催されました。協会と実行委の共催です。冒頭被爆者協会の廣田会長は核脅迫を行うロシアのウクライナ侵略に触れ「核兵器のない世界をめざしネバーギブアップで頑張ろう」と挨拶。

次いで知事(代読)、原水協の来賓あいさつの後、特別支援学校の青年教員が「被爆の実相を伝え続けてきた被爆者からのバトンを受け継ぎ、平和の尊さを訴え続けます」と「平和の誓い」を述べ参加者に大きな感銘を与えました。



廣田凱則会長の挨拶

フルートによる鎮魂の曲の演奏の中で献花・献水をし、北海道合唱団の原爆を許すまじの合唱で第一部を閉じました。核兵器は無くさなければという思いが、主催者・来賓・青年の挨拶に強くにじみ出た追悼会でした。



中村政子さん

第 2 部は 3 年ぶりに開かれた「被爆者の思いをうけつぐつどい」。生後 5 か月で被爆した中村政子さん(三笠市)が、小屋裏で看護に当たって被爆した母親から聞いた被爆者の様子、大きな障害をもって生まれた弟との 21 年間で語り、弟が最後に述べた「生きるって素晴らしいね」という言葉を紹介、「核兵器などあつてはいけない」と訴えました。その後参加者が意見を述べあい交流しました。

語り継ぐ原爆 被爆の証言と原爆展

7 月 21 日・22 日、北海道庁 1 階ロビーで 7 年目となる今年の「被爆の証言と原爆展」が開かれました。会場の仕様が変わり展示するのに、一苦労しましたが、情勢を反映してか予想以上の人々が来場、特に大学生など若い世代の人たちが目立ちました。それぞれ証言に耳を傾け熱心に展示を見ていきました。

二日目は被爆二世 4 名が語りました。コロナを避けるため被爆者は休みをとりましたが、この日もたく



一日目は 4 名の被爆者が証言しました。被爆当時の様子のみならず、その後どういった苦しみや不安を背負って生きてきたのかを語りました。東陵高校の高校生が作った特別出品のジオラマ(「もし広島型原爆が札幌駅上空で炸裂したら」)も大人気でした(現在ヒバクシャ会館に寄贈され展示されています)。

長崎で被爆した宮本須美子さんが証言しています。



さんの来場者がありました。二世 4 名の語りはそれぞれが個性的了。旭川のシャノン講師は「長崎の鐘」を歌って終えました。現役の小学校教師は子どもたちに希望を伝えることを意図し「なぜ広島にはお好み屋が多いのか」と語り始めました。新しい動きの始まりを感じさせるものでした。2 日間で約 630 名の来場者がありました。

協会・会館問題の説明会予定

被爆者の高齢化に伴い次第に活動に困難が生じています。9 月 24 日に、協力・支援をいただいている団体・個人の皆様に現状を説明する機会持ちます。お問い合わせは協会事務局まで。